

特 別 講 演 抄 録

I. 近畿大学における腎移植18年の経験

秋山隆弘

近畿大学医学部泌尿器科学教室

近畿大学病院開設以来18年間に、生体腎57例、死体腎56例の計113例の腎移植手術を施行した。年次症例数は89年の18例をピークに一時的に減少をみている。原腎疾患はCGN以外が1/4を占め、他施設より多い。生着成績はCSA導入後顕著な改善をみ、10年以上の長期生着者が増えつつある。死体腎の比率が他施設に比して多く、提供施設として当院CCMCは19腎の多さを数える。術後合併症としてCMV感染症と悪性腫瘍発生が今後問題となる気配である。

死体腎移植は広域の多施設間の連携プレーを要する医療で、大阪府下6施設ならび近隣他府県とネットワークを組織して行っている。府下6施設では、大阪腎臓バンク・大阪透析研究会の協力の下に、現在2,517人の移植希望者の登録を得、現在までに268例の死体腎移植を行った。CSA導入後生着率が飛躍し、全国統計をしのぐ好成績である。HLA適合度と生着率は明瞭に相関を示している。

当教室では臓器移植学に関する基礎的、臨床的研究に終始取り組み、本邦の腎移植の進歩に大いに寄与してきた。免疫抑制剤については、CSA・FK506・DSGの作用機序と解明、CSAとFKの併用効果、抗接着分子抗体や骨髄細胞による免疫寛容導入などの基礎免疫研究と、

CSAを用いた最適の薬剤併用療法のレジメンの開発で先進的役割を演じてきた。また、³¹P-NMR、TMRを用いた腎移植学に関する先駆的研究で幾多の新知見を報告してきた。組織適合性検査に於ては、死体腎のレシピエント選択にrapid MLRという新技法を考察、実用化した。術後管理で最大の課題である拒絶反応の早期診断の方法についても、Spontaneous Blastogenesis, Five Needle Aspiration Biopsy, Lymphocyte Subsetによるmonitoring, Color Doppler ultrasoundなど革新的な技法を考察、臨床の進歩に貢献してきた。また、不治とされる慢性拒絶反応に対して、Thromboxane synthetase inhibitor OKY-046, tissue-type plasminogen activator, DSG間欠投与方法などユニークなアイデアを次々に発案し、慢性拒絶克服の地歩固めに成功しつつある。

脳死臓器移植を巡る最近の社会情勢と今後の展望についても若干触れた。本年1月の脳死臨調最終答申以後も実際の脳死移植が進展しない理由に検察・警察当局の厳しい見解というものがあり、その打開には臓器移植法の制定が不可欠との日本移植学会の認識の下に議員立法を目指す我々の活動や、移植コーディネーターによる地道な日常活動を行っていることを紹介し、本講演を締めくくった。